

trivia ■皮膚科のトリビア■ 142

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

VZVのsilent reactivation

第51回横浜北部皮膚科臨床懇話会から(平成28年6月16日)

帯状疱疹は、神経後根に潜伏したvaricella-zoster virus (VZV)の再活性化によって生じるが、最初のイベントは増殖したウイルスによる神経根炎であり、発疹がない段階で痛みを感じるものがしばしばある。この時点で、星状神経にも潜伏しているVZVが増殖し、唾液中に分泌されるため、唾液中のVZVをPCRで確認することが可能。その後は罹患した神経領域に発疹が出現するが、発疹が生じない場合もあり、それをsilent reactivationと呼ぶ。

「片側性の痛みだけで、これから帯状疱疹の発疹が出てくるか、出てこないか、抗ウイルス薬による内服治療を見切り発車するか、待つかで悩む症例があるが、発疹がまだ出ていない時点でも唾液中のVZVをPCRで確認できれば、確信を持って治療することができる。ただし、日本の検査会社の使用しているプライマーでは偽陰性が多いらしく、まだ使えないとのこと」。

ストレスの指標は唾液中のCgAがよい

第65回日本アレルギー学会学術大会から(平成28年6月16日)

アトピー性皮膚炎の悪化因子の一つに心理的ストレスがあるが、簡便で客観的な指

標がない。ストレスを定量的に測定することを目的として、患者唾液中の cortisol、アミラーゼ、クロモグラニンA (CgA) を測定した。交感神経系はストレスに対して鋭敏に反応するとされ、CgAは交感神経ニューロンから分泌される主要な蛋白の一つである。アトピー性皮膚炎を軽症、中等症、重症、最重症の4群でこれらを比較したところ、唾液中アミラーゼは重症度に差はなかったが、CgAは重症であればあるほど高値を示した。

「以前から“あなたのストレスはこのくらい”という客観的な指標があればいいと思っていたが、CgAの測定が有用ということを知った。アトピー性皮膚炎のほかにも慢性蕁麻疹の増悪時などで測定してみたい。ちなみにELISAのキットが入手可能である」。

DLSTに代わるIFN- γ ELISpot法

第65回日本アレルギー学会学術大会から(平成28年6月16日)

遅延型薬剤アレルギーでは、従来、薬剤反応性を細胞分裂で検出するDLSTが用いられてきたが、感度や特異度が高い検査とはいえない。近年、結核の診断には従来のツベルクリン反応に代わり、結核菌抗原に対するIFN- γ をELISpotで検出する、クオンティフェロンが用いられている。これと同様に、原因薬剤が明らかな薬疹患者10例の

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

末梢血単核球を用いて、薬剤反応性のIFN- γ 産生をELISpotで捉えることができるかを確認した。10例のうち、DLSTが陽性の4例では全例、DLSTが陰性の6例では1例、合計5例で薬剤反応性IFN- γ の産生が確認できた。IFN- γ ELISpotはDLSTと同等以上の感度で、原因薬剤を特定できる有用な方法である。

「DLSTを行って、SI=1.7という結果で、結局陰性なのか陽性なのかの判断に困る場合がしばしばある。IFN- γ ELISpotがクリアカットな結果を出してくれると助かるのだが、方法についてはまだ検討が必要らしい」。

「呼吸器科の入院なので、CADMの重症例が多いが、筋症状のある皮膚筋炎でもフェリチン値が高値だと予後が悪いということ。MDA5、Mi-2、TIF1- γ の自己抗体測定も保険適応になり、皮膚筋炎はかなり整理されてきた」。

職業性のスッポンアレルギー

第65回日本アレルギー学会学術大会から(平成28年6月17日)

30歳代の女性。日本料理店で配膳の仕事を7年間続けていて、年に1回はスッポンを食べる機会がある。3年前からスッポン鍋の湯気があたるとくしゃみと顔の痒みが生じるようになり、スッポンを食べた後の咽頭違和感を認めるようになった。prick to prickテストで、スッポンの生肉と水煮肉で強陽性。解析の結果、抗原は β -paralbuminであったが、魚の摂取は可能だった。

「感作経路はスッポン鍋の蒸気による経皮感作ないしは経気道感作ではないか、とのこと。飲食店に勤務する人の経皮感作による即時型アレルギーは今後もいろいろな症例が出てきそうだ」。

フェリチン値が900 ng/mlのPM/DMは予後が悪い

第65回日本アレルギー学会学術大会から(平成28年6月17日)

多発性筋炎/皮膚筋炎では急速進行性間質性肺炎(RP-ILD)が生命予後に関与するが、抗MDA5抗体陽性のCADMに多く、フェリチン値が高値で、それを指標に治療を決定することになる。呼吸器科に入院した39例の内訳は、PM 12例、CADM 19例、CADM以外のDM 8例で、RP-ILDはPM 7例、CADM 16例、DM 5例で、死亡例はそれぞれ0例、8例、3例であった。治療前のフェリチン値の中央値は、PM 117 ng/ml、CADM 470 ng/ml、DM 634 ng/mlで、とくに900 ng/mlを超える症例は全例死亡しており、予後判定の目安になる。

